

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎市北部地域療育センター		
○保護者評価実施期間	2025年 12月1日		2026年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	76 (回答者数)	49
○従業者評価実施期間	2025年 11月25日		2026年 12月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職が関わるチームによる支援体制	プログラムの立案段階から心理士がクラスに入り、担任職員や他の専門職と連携しながら支援内容を検討・実施している。専門的な視点を踏まえた活動設定や関わり方により、子ども一人ひとりの特性や状態に応じた支援が行われており、短い時間の中で、子ども自身が達成感を得られる活動設定をしている。	プログラムの立案段階から関与している心理職の専門的視点を、引き続き、振り返りや記録の場でもより意識的に共有し、職員全体で支援のねらいや関わり方について共通理解を深めていく。
2	見通しを持ちやすい環境づくりと構造化された支援	活動内容の掲示や、活動に応じた部屋の使い分け、動線の工夫等により、子どもが見通しを持って安心して活動できる環境づくりを行っている。 視覚的支援や空間構成の工夫は、集中しやすさや落ち着いた活動、子ども自身が理解して取り組み、達成感を十分に得ることにつながっている。	引き続き、視覚的支援や環境構成の工夫を通して、子どもにとって分かりやすい支援を大切にするとともに、興味や発達段階に応じた魅力的な活動設定を行っていく。 それにより、子どもが安心して活動に参加し、自ら考え、選び、取り組むといった主体的な学びにつながる支援の充実を図っていく。
3	保護者との丁寧な情報共有と高い満足度	懇談会を隔週で実施し、活動内容や子どもの様子について丁寧なフィードバックを行っている。それにより、保護者と支援のねらいや子どもの成長を共有している。 また、保護者の理解や家庭での関わりにつなげるため、日々の振り返りや小さな変化・成長を丁寧に伝えることを意識して行っている。	今後も隔週で実施している懇談会を継続し、活動内容や子どもの様子についてのフィードバックを丁寧にを行うことで、保護者との共通理解をさらに深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動プログラムに対する職員間の認識の差	従業者自己評価において、「活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか」の設問で一部「いいえ」の回答が見られた。 活動自体は工夫されているものの、その意図や工夫点が十分に共有されていないことが、固定化しているという認識につながった可能性がある。	基本的な流れは変えずに、少しずつ内容や道具を変える工夫、活動の種類を増やし、時期に合わせて入れ替える仕組み、子どもの成長に合わせた“難しさ”や“ねらい”の調整を行い、“新しい学び”と“くり返し”による定着”の両方が得られるような支援を行う。
2	短時間グループにおける交流機会の位置づけ	短時間グループは、地域の保育所や幼稚園等に通う子どもを対象とし、地域での集団生活を基盤とした支援を行うことを運営の狙いとしている。そのため、事業所として新たに保護者同士やきょうだい同士の交流の機会を設けていない。	保護者からの要望も踏まえながら、事業所としての支援の位置づけや役割について丁寧に説明するとともに、必要に応じて支援の在り方や情報提供の方法について検討していく。
3	短時間グループにおける相談時間の確保	・懇談会で振り返りの時間が有意義であるとの評価がある一方で、「個別に話す時間がもう少しあるとありがたい」といった声の一部が見られた。限られた支援時間の中で、相談時間をどのように確保していくかが課題である。	・短時間グループの特性を踏まえつつ、懇談会の機会に加え、必要に応じて電話や面談等を活用して個別に相談時間を確保するための工夫を行っていく。

事業所名	川崎市北部地域療育センター
------	---------------

公表日 2026 年 3 月 30 日

利用児童数

76

回収数

49

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	48	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとに部屋を替えたりホールや園庭も使えている。 ・動く活動と座る活動で部屋を分けるなど、短時間でも多くの経験ができるよう工夫されていると感じている。 ・部屋の移動も含めて他の通所者とすれ違うこともこれまでに無く、子どもの気が散らず集中を保てるよう工夫されている。 	・活動内容に応じた部屋の使い分けや動線の工夫を今後も継続し、子どもが安心して集中できる環境づくりに努めてまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	49	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども6人に対して専門性の高い職員が4人いる ・懇談会の際にも代わりの職員が入るなど、常に目が行き届く手厚い体制だと感じている。 ・子どもの身の安全に関わる時は瞬間移動かの如く動き、それ以外の子どもの動きについては本人の気持ち作りの時間として見守り、必要に応じて軌道修正が瞬時に行われていると感じる。匠のなせる技を毎回惜しみなく見れている。 	・今後も子どもの安全確保と主体性の尊重の両立を意識し、適切な職員配置のもとで支援を行ってまいります。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	45	2	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の活動が必ず掲示されており子どもが自分で確認している。 ・棚の中身や吊り下げ装飾に手が届くため、鍵や目隠しなどの環境調整をお願いしたい。 	・活動の見通しができる掲示を引き続き行うとともに、装飾や備品については安全面を再確認し、必要に応じて環境調整を行ってまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	47	2	0	0		・引き続き適切な生活空間の確保に努めてまいります。
	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	48	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の専門性が高く、専門的な見地や豊富な経験に基づく助言が心強い。親ひとりには気づかない小さな変化も丁寧に共有してくれている。そのおかげで、親子の会話が広がり、子どもをまた別の角度から理解するきっかけをたくさんもらえた。 ・言葉選びやタイミングなど、子ども1人1人に合わせて使い分けしており、少しでも家庭でマネできたらと思っている。 	今後も専門性を活かした支援と丁寧なフィードバックを大切に、子ども一人ひとりに合った関わりを継続してまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	48	0	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・医師や職員との関わりの中で、困りごとや課題を整理してもらえ、必要な支援につながっていると感じている。 	・引き続きプログラムの変更に応じて周知を継続します。

適切な支援の提供	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	48	1	0	0	・今後もこどもの状況や保護者ニーズを適切に反映させた支援計画を作成してまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	46	2	0	1	・今後も「本人支援」「家族支援」「移行支援」の項目について具体的に支援内容を設定してまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	48	1	0	0	・今後も支援計画に基づいて支援を行ってまいります。
	10	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	45	2	0	2	・引き続きこどもの変化等に応じて活動プログラムを工夫してまいります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	28	4	7	10	保・育園や家庭での交流はあるが、設問の意図が分かりにくく、毎回回答に迷う。 ・短時間グループの利用対象児は、地域の保育園や幼稚園等に在籍しているお子さんであるため、事業所として地域の他児童との交流機会を別途設けることは行っておりません。 ・日常的な集団経験や地域交流については、在籍する保育園・幼稚園等での生活を通して行われているものと捉えています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	49	0	0	0	・引き続き丁寧な説明に努めてまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	49	0	0	0	・いつもすぐ丁寧かつ分かりやすく説明してもらっている。 ・引き続き丁寧な説明に努めてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング（※5）等)や家族等も参加できる研修会や情報提供等が行われていますか。	36	7	1	5	・引き続き、活動の様子や関わり方のポイントについて、丁寧にフィードバックすることを大切にしてまいります。 ・ペアレント・トレーニングについては、対象となる方に心理職が中心となって実施しております。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	44	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回振り返りの時間があり、他の保護者の話も参考になっているが、小集団のため個別にゆっくり話す時間は少ない。ただし、話したいことがある時は電話で相談できている。 ・小さな変化にも気付いてもらい、こどもと保護者に様子を聞いてくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もこどもの健康や発達について保護者と共通理解を得ながら支援を行ってまいります。
	16	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	41	6	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回親と先生との間で振り返りの時間を設けていただいております、先生と認識を共通にしたり、他の保護者の話が聞けるため大変参考になっている。 ・短時間グループのため難しいかもしれませんが、もう少し時間が長く、また個別にお話する時間もあると有難い。(2件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて面談等の機会を検討し、相談しやすい体制づくりや相談時間の確保に努めます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	48	0	0	1	安全に関わる場面では瞬時に対応し、それ以外の場面では気持ち作りの時間として見守りつつ必要に応じて軌道修正してくれる。すべての職員が優しく見守ってくれていると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きこどもや保護者の気持ちに留意しながら支援を継続してまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされていますか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	9	3	17		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流会等は行っておりませんが、要望があった時にはしっかりと家族の相談に応じるように努めています。 ・きょうだい児への関わりをテーマとした研修会やイベント等の情報提供に努めてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されていますか。また、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	45	3	0	1		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者が安心して相談できる体制を確保してまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	47	2	0	0		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き努力してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	33	6	0	10		<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回の通信発行に加えアプリ等を活用し、連絡事項の発信を引き続き行っております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	44	1	0	4		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取扱いは適切との評価を踏まえ、引き続き職員研修と取り扱い手順の点検を実施します。 ・誤送信・誤配付防止のためのダブルチェックを徹底します。

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34	4	0	11	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はまず 契約時の重要事項説明の場において、訓練を実施していることや、事故防止・緊急時対応・防犯・感染症対応等のマニュアルを作成していることを確実にお伝えすることを強化しています。 ・今後も、マニュアルの周知方法について継続して検討し、必要に応じて保護者の皆様に確認しやすい形での情報提供ができるよう取り組んでまいります。 	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	4	3	21	<ul style="list-style-type: none"> ・施設としては月1回訓練を行っています。 ・子どもを含めた訓練については、午前中に行っております。その為、短時間グループは機会がない可能性があります。 ・今後も契約時の重要事項説明の場において、訓練を実施していることを丁寧に説明してまいります。 	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	44	2	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き安全の確保に努めてまいります。 	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	35	3	1	10	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き速やかな連絡と丁寧な説明に努めてまいります。 	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	48	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・最初、モジモジしている子どもに声をかけてくれ、安心できるようにしてくれている。 ・場所見知りするタイプだったと思いましたが、初回訪問時も、クラスの体験時も、全くそれが見られなかったことを不思議に思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して通所できているとお声をいただいています。 ・今後も、子どもが安心して利用できるよう、丁寧な関わりと環境づくりに引き続き努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	45	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週「今日は何をするのかな？」と楽しみにしている。 ・「今日は何するんだろうね？」と行きながら話してくれたり、クラスでの活動のことを保育園でお友だちに話したりしている。 ・活動によって負荷があり、体調によって行きたくない日がある。 ・先生や仲の良いお友達に会えるのを楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所を楽しみにしているとお声を多くいただいています。 ・今後も、子どもが安心して楽しく利用できるよう、興味に合った活動や丁寧な関わりを大切にしながら支援を続けてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	49	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して自信がつき前に立つことにも積極的になった。通所期間が限られている家庭があることが気になったが、年長の最後まで通える予定なので満足している。 ・センターにいるすべての職員の皆様（直接関わりのない方も含め）が優しく見守ってくださっているを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答いただいた方から、「はい」との評価をいただいたことを踏まえ、現在の支援内容や関わり方を大切にしながら、今後も専門性の向上と支援の質の維持・充実に努めていきます。 ・引き続き、保護者の声を丁寧に受け止め、安心して利用できる事業所運営を継続していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		川崎市北部地域療育センター		公表日		2026年 3月30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	・なるべく必要な備品以外は倉庫に収納し、使用する際に出すなどの工夫を行っており、人数に対して十分な広さで活動を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	・きめ細かな支援ができるよう、手厚い体制をとっており、規定以上の人員配置になっている。 ・担当がクラス不在時でも、他の職員がフォローに入ることができている。	・人材の確保と資質向上に引き続き取り組みます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0	・クラスごとに、こどもの様子に合わせた環境設定を工夫している。 ・絵カードや写真等の視覚支援を活用し、こどもが活動の流れや次の行動を理解しやすいよう配慮している。	・こどもの特性に留意した支援環境作りを継続していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	・毎日、清掃や使用したおもちゃの消毒をしている。	・老朽化に伴う空調設備の計画的な改修が必要な状況となっています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	・パーティションなどで仕切りを付けて個室を作ったり、個別の関わりが必要な際は、空いている部屋を使用できている。	・随時工夫しながら対応していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	・毎日必ず振り返りを行い、次の改善点を話し合う時間を設けている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・ミーティングで周知している。また、内容確認後改善を意識し、取り組んでいる。	・保護者の意向等をできるだけ業務改善に反映させていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・会議や面談等を通じて、職員の意見や気づきを把握する機会を設けている。	・職員の意見等をできるだけ業務改善に反映させていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	0	・第三者評価や外部監査を受け、事業運営の点検を行っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	・内部研修や外部研修への参加機会を設け、職種や経験年数に応じた学びの機会を確保している。	・職員の資質向上のための取り組みを充実させていきます。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	・支援プログラムを作成し、保護者や職員が確認できる形で公表・周知している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	0	・保護者との面談やアセスメントシート活用し、個々に合わせた支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	・クラスに関わった職員、専門職で毎回振り返りを行い、次回の内容を考えている。	・チームとして支援計画を作成する取り組みを充実させていきます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	・支援計画を随時確認し、記録や振り返りを通して支援内容の共有を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	・アセスメントシートや日々の行動観察を活用し、こどもの状況を多面的に把握している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	・児童発達支援ガイドラインを踏まえ、本人支援を中心に、家族支援や移行支援等も意識しながら支援計画を作成している。 ・必要に応じて関係機関との情報共有や連携も行っている。	・総合的な支援の充実をめざしていきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	・クラス担当者のほか専門職も含めて立案している。		

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	1	・専門職も含め様々な視点で考えている為、 自ずと固定されない。 ・毎回の振り返りを活かし、毎回クラスでやるべきことの見直しを立てて考えている。	・活動内容については一定の工夫を行っているものの、職員によっては固定化していると感じられる場面があることが課題として挙げられる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	・こどもの状況やねらいに応じて、個別的な関わりと集団活動を使い分けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	・クラス担任、関係専門職で事前打ち合わせの時間を必ず設けている。	・職員間の連携・協力を大切にしています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0	・毎回、クラスで支援を行った職員間で振り返りを必ずしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	・記録は必ず取っている。反省だけではなく 次回の検討も行っている。 ・振り返りをしながら、記録様式に入力して業務の効率化を図っている。	・効率的な記録の作成、振り返りに有用な記録内容等が課題となっています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	・半年に一度は支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・児童発達支援管理責任者やクラス担任等、 日頃からこどもの支援に関わっている職員が 会議に参画し、状況や支援内容を共有してい	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	・必要に応じて、保育所・幼稚園・学校等と 連携し、こどもの適応状況や支援内容、移行 支援等について情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	・所属園での様子確認や、必要に応じて訪問 をする等している。 ・就学時は必要に応じて書面や訪問、電話連 絡等で情報共有を行っている。 ・保育所や幼稚園等と併用利用できるクラス 設定を行っている。	・巡回支援や保育所等訪問支援事業等を活用して連携を深めています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	・(移行)支援シートの作成や就学予定校の 担当者の見学を受け入れる等を通じて、就学 先との情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	0	・地域療育センターの中核的役割として、年2 回、区内の事業所を対象に連絡会を実施して いる。	・地域療育センター機能を活用して支援スキルの向上等に繋げていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	0	・行事やイベント等を通じて、地域とのつな がりを持つ機会を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	・保護者登園日や面談、日常的なやり取りを 通じて、こどもの様子や支援内容を共有して いる。	・保護者との関わりの充実に努めています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	・保護者向け学習会を施設やクラス単位で 行っている。 ・心理職を中心にペアレント・トレーニング 等を実施している。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	・契約時や年度当初に、運営規程や支援内容 等について丁寧に説明を行っている。	・必要に応じて運営規定や支援プログラムを適切に見直しを行ったうえで丁寧な説明に努めます。	

保 護 者 へ の 説 明 等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	・アセスメント面談を実施し、育ちの意向を聞き取っている。 ・モニタリング面談では、過ごしの様子や支援内容の振り返りを保護者と一緒に行い、次期への目標、支援の確認をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	0	・支援計画を提示しながら説明を行い、保護者の同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	6か月に最低1回は、モニタリング面談を実施している。その他、要望に応じて面談をしたり、懇談会の場を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	・隔週の頻度で懇談会を実施している。 ・短時間グループでは行っていないが、児童発達支援センター事業では、父親交流会等のイベントを実施し、保護者同士の交流の機会を設けている。	・短時間グループでのきょうだい児向けイベントの実施は現在のところ予定していない。 ・きょうだい児への関わりをテーマとした研修会やイベント等の情報提供を行っている。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	・相談内容に応じて主担当を決めながら関係職員で共有し、迅速かつ適切な対応に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	・年間4回の通信発行に加えアプリ等を活用し、活動内容や連絡事項の発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	・研修やセルフチェックを通じて、個人情報の適切な取扱いを徹底している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	・絵カードや書面、分かりやすい言葉を用い、子どもや保護者に応じた情報伝達を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	0	・行事やイベントを通じて、地域住民との交流の機会を設けている。	・障害児とその家族が安心して地域で生活できるよう地域の理解を得ること、地域で障害児者支援の輪を広げること等に取り組んでいる。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	・各種マニュアルを整備し、職員や保護者に周知するとともに定期的な訓練や研修を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	・業務継続計画を策定し、定期的に避難訓練等を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	・所内の様式を活用し、健康・生活面の聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	活動時間の中で給食がない為、機会はないが、必要に応じて看護師と確認して対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	・作成した安全計画に基づき、研修や訓練を通じて安全管理に取り組んでいる。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0	・契約時等に安全に関する説明を行い、保護者と情報共有をしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	・担当委員会等を通じてヒヤリハット事例を共有し、再発防止の検討を行っている。	・ヒヤリハットの内容を分析し、今後の対応に反映させていきます。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	・定期的な研修やセルフチェックを行い、虐待防止への意識向上に努めている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0	・身体拘束適正化委員会を設置し、組織的な決定を行うとともに保護者に説明を行い、児童発達支援計画へ記載をして支援を行っている。	・子どもの権利を侵害しないようしっかりと協議し組織的に決定していきます。	